

ネットワークポリマー 第37巻 (2016)

総目次

報 文

- リン酸エステルとエポキシ樹脂の反応と硬化反応への
応用
玉祖 健一・小川 亮・松本 幸三・
遠藤 剛……………(108)
- Synthesis and Cross-linking of Copolymers
Containing Dithiocarbonate and Phenol Moieties
Yukiko INOUE, Kozo MATSUMOTO,
and Takeshi ENDO ……(116)
- イオン性官能基を持つポリマーを組合せたコアセル
ベート型ハイドロゲルの特性向上に関する検討
川守 崇司・Jeffrey Gopez・Craig J. Hawker
・海野 雅史……………(122)
- 液晶中に溶解した2官能基メタクリレートモノマーの
光ラジカル重合の解析
水崎 真伸・榎本 智至・原 祐樹……………(131)
- 自動車ハイサイクル RTM 用エポキシ樹脂の開発
富岡 伸之・岡 英樹・本田 史郎……………(138)
- 亜鉛ビス (アリルジチオカルバメート) の合成とラジ
カル重合
長山 真太郎・落合 文吾……………(156)
- 有機無機ハイブリッド材料 (メタルハイブリッドレジ
ン) の合成と実用性評価
北島 啓資・鎌田 徹・雑村 史高・
林 嵩文・山岸 忠明……………(163)
- さまざまな β -メチルグリシジルエーテル型エポキシ
樹脂の合成と硬化物物性
小林 将太・玉祖 健一・井出 光紀・
山田 慎介・小川 亮……………(168)
- Elastic Polyurethane Ionomers from Dimer Acid
Tomoki KASAWARA and Hiroshi UYAMA ……(175)
- 隣接トリカルボニルを有するポリマーとポリエチレン
グリコールからなる可逆的架橋-解架橋システムの
構築
——架橋剤としてのポリエチレングリコールの濃
度, 分子量効果——
柚木 辰也・末次 翔・米川 盛生・
松本 幸三・富田 育義・遠藤 剛……………(180)
- アルコキシラン類の *in situ* オリゴマー化を利用した
多環芳香族エポキシ樹脂の高性能化
星 隼人・高橋 昭雄・大山 俊幸……………(202)
- ZnO ナノ粒子を分散したシルセスキオキサン型エポ
キシ樹脂からなる透明の紫外線遮蔽コーティング膜
越智 光一・山内 健太・天野 夏美・
原田 美由紀……………(208)
- 草本系リグニンを活用したフェノール樹脂の高性能化
に関する研究
——フェノール樹脂の特性に及ぼす草本系リグニン
の粒径の影響——
木村 肇・大塚 恵子・松本 明博・
米川 盛生……………(217)

(メタ) アクリル酸ジシクロペンテニルの合成とその UV 硬化樹脂への応用 亀井 淳一・永井 良典……………(236)	均一網目構造を用いた高分子ゲルの弾性と構造の相関 の研究 片島 拓弥・酒井 崇匡……………(73)
芳香族ジアミン類によるシアネート樹脂の速硬化と各 種ノボラック型シアネート樹脂の開発 片桐 誠之・岩本 慎平・安田 祥宏・ 長谷川 弘毅・辻本 智雄……………(242)	3D ゲルプリンティング 岡田 耕治・渡邊 洋輔・齋藤 梓・ 川上 勝・古川 英光……………(81)
架橋ポリスチレン／液状ポリブタジエン二成分混合手 法による性状変化 米田 昌弘・松本 幸三・遠藤 剛……………(253)	MOF と有機高分子を融合した新しいネットワーク高 分子 小門 憲太・佐田 和己……………(88)
スメクチック的構造を有するトランスファー成形可能 なメソゲンエポキシコンポジット 吉田 優香・田中 賢治・片木 秀行・ 小杉 慎一・陶 晴昭・竹澤 由高……………(260)	バイオマーカー応答性超分子ヒドロゲルの開発 重光 孟・浜地 格……………(99)
	ネットワークポリマーを利用した新規高分子電解質の 電解質の開発 松本 幸三・遠藤 剛……………(145)
	UV 硬化性ハイパーブランチポリマーの合成と応用 工藤 宏人……………(188)
総 説	
自励振動高分子ゲルの創製とネットワーク形成する分 子集合体としての新展開 小野田 実真・吉田 亮……………(3)	複数波長の光を用いたポリマーネットワークの制御と その機能性材料への応用 岡村 晴之……………(224)
二軸変形測定によるゲルの大変形挙動の解析 浦山 健治……………(12)	相分離を利用するポリマーモノリスの合成と応用 宇山 浩……………(266)
環動ゲルの力学物性と化学構造との関係 加藤 和明・伊藤 耕三……………(21)	
可逆的な炭素－炭素結合に基づく動的共有結合ポリ マーゲル 今任 景一・後関 頼太・大塚 英幸……………(31)	若手研究者の目 「川上」と「川下」の技術領域における開発 大津 理人……………(53)
ブロック共重合体の自己集合を利用したイオンゲル 北沢 侑造・上木 岳士・小林 優美・ 渡邊 正義……………(41)	企業研究者として 横山 耕祐……………(197)
特定分子に応答して膨潤収縮する刺激応答性ゲル：分 子応答性ゲル 宮田 隆志・乗岡 智沙……………(61)	機能性樹脂の開発に向けて 橋本 俊哉……………(231)

技術の創出 高岩 玲生……………(274)	特集号「柔軟性ネットワークポリマー：ゲル研究における新展開」II について 大山 俊幸……………(60)
巻頭言	
合成樹脂工業協会の学術活動への取り組みと、進化の期待 林 茂……………(1)	探究心とイノベーション 飯田 浩……………(107)
特集号「柔軟性ネットワークポリマー：ゲル研究における新展開」について 大山 俊幸……………(2)	研究者のセンスに期待したい 小島 靖……………(155)
企業における R&D 部門と技術部門の距離感 有田 和郎……………(59)	樹脂とゲル研究の融合 吉田 亮……………(201)
	オープンイノベーション，人材交流，そして大学人 高田 十志和……………(235)